

## ■プレ事業（施設オープン前に行うイベント）について

プレ事業とは新しい施設がオープンする前に行われる事業(イベント)のことです。

このプレ事業は主に以下のような目的を達成するために行うものですが、他市の施設においても市民や様々な団体と協力連携しながら、施設が開館するまでの期間の間に様々な場所で様々なイベントが行われています。

### ■プレ事業を実施する主な目的

- 早い時期から情報を発信し、新市民会館が完成することを広く伝える。
- 新市民会館の設置目的や新市民会館で行われる事業の方針・内容を様々な方法（公演や講演会、ワークショップの開催など）で伝えることにより、新しい施設への関心や理解を高める
- 開館に先立ち、事業の実施や施設の維持管理を行うスタッフの習熟訓練を行い、ノウハウの蓄積や開館に向けた課題を整理し解決策を得る機会とする



↑ 建設現場フェンスを利用した施設広告や地元の子もたちが描いた絵を展示



↑ 地域を走行する電車やバスにラッピング(広告掲載)を施す



↑ 近隣の駅や商店街に施設のフラッグを設置



↑ 体育館など地域の既存施設での公演やワークショップの開催



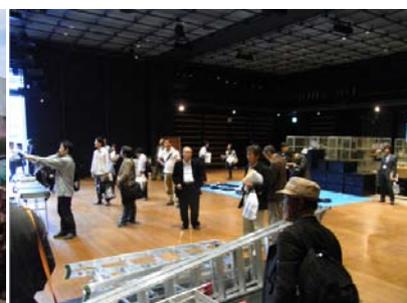
↑ 施設の愛称募集



↑ 講演会の開催



↑ 開館前の施設見学会



- ここでは他市において新たにホール施設が整備された際に行われたプレイベントの事例について紹介をしています。
- この資料でまとめられた事例などを参考にいただき、新市民会館のオープンに先立ち観音寺市ではどのようなプレ事業（イベント）を行うことが良いと考えるかご検討下さい。

プレ事業：各地で行われた事例

●久留米シティプラザ

施設データ	開館年月日：平成 28 年春開館予定
	管理運営主体：直営
	設置主体自治体人口：30 万人
	施設構成：大ホール(1,509 席)、小ホール(399 席)、展示室、会議室、広場、など
実施期間	平成 25 年 5 月～継続的に実施中
実施事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーター（久留米市参与／立教大学大学院兼任講師）を招き「街なか企画塾」を開講。企画を実施するために必要な企画書の書き方やプレゼンテーションの方法を学ぶ機会を提供。</li> <li>・整備地区近隣の商店街にてランチタイムコンサートや大道芸イベントを実施。</li> <li>・近隣の既存施設（ホールや公民館等）にて公演やコンサートなどを実施。</li> <li>・ウェブサイトの開設、ローカル放送局での広報活動、広報紙の発行、工事現場との連携、など</li> </ul>
経費	—
担当職員	・市（市民文化部久留米シティプラザ推進室）が実施。財団の他、文化際実行委員会、まちづくり振興会などが共催、協力している。

●ホルトホール大分

施設データ	開館年月日：平成 25 年 7 月 20 日
	管理運営主体：ホルトホール大分みらい共同事業体
	設置主体自治体人口：47 万人
	施設構成：市民ホール(大ホール：席/小ホール：席)、スタジオ A B C、会議室（大中小 17 室）、エントランスホール、駅南キッズステーション、駅南屋上公園、カフェレストラン、市民図書館、サテライトキャンパスおおいた、まちづくり情報プラザ、障がい者福祉センター、健康プラザ、シニア交流プラザ、子育て交流センター、など
実施期間	平成 25 年 7 月 19 日・1 日間
実施事業	・開館前のホール壁面 60m に「新しい街・出会い・感動・人の元気」をテーマにした映像を投影するプロジェクションマッピングを実施した。
経費	—
担当職員	・大分市複合文化交流施設整備事業を委託されていた大分駅南コミュニティサービス（開館準備室）が実施した。

●柏崎市文化会館アルファール

施設データ	開館年月日：平成 24 年 7 月 8 日
	管理運営主体：かしわざき振興財団・新潟照明技研共同事業体
	設置主体自治体人口：9 万人
	施設構成：大ホール（1,102 席）、マルチホール（182 m <sup>2</sup> ）、練習室（2 室）、会議室（3 室）、市民ラウンジ、ギャラリー回廊、ワークスペース、ミーティングルーム、劇場広場、音の遊び場 ほか
実施期間	平成 24 年 4 月 26 日・1 日間
実施事業	・開館記念イベントとして、クラシック音楽の祭典「ラ・フォル・ジュルネ新潟」のプレ公演を市産業文化会館（文化ホール）で開催した。
経費	—
担当職員	・プレ事業は市文化会館整備推進室が担当し、現在の管理運営は指定管理者による。

●北九州芸術劇場

施設データ	開館年月日：平成 15 年 8 月
	管理運営主体：財団法人北九州市芸術文化振興財団
	設置主体自治体人口：101 万人
	施設構成：大ホール(1,269 席)、中劇場(700 席)、小劇場(96～216 席)、稽古場、市民ギャラリー、アトライブラリーなど
実施期間	平成 12～14 年度までの 3 ヶ年
実施事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演劇ホールであることから、人気劇団招聘公演、演劇講座、演劇自主制作等演劇に特化した事業。</li> <li>・劇場運営のノウハウ獲得と運営を行う人材の育成が目的。</li> <li>・以前から実施されている、実行委員会による「北九州演劇祭」も継続して開催。</li> </ul>
経費	2,300 万円(平成 12 年度予算)
担当職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は、(財)北九州市教育文化事業団の職員が担当している。開館後は、現存の財団を再編し管理運営を行った。</li> <li>・財団内に設けている実行委員会の事務局には、演劇の専門家が雇用されていた。</li> </ul>

●栗東町民文化芸術会館さくら

施設データ	開館年月日：平成 11 年 10 月
	管理運営主体：株式会社ケイミックス ※ただし、プレ事業実施当時は(財)栗東町文化体育振興事業団
	設置主体自治体人口：5.3 万人
	施設構成：大ホール(810 席)、中ホール(406 席)、小ホール(200 席)、練習室、展示室 施設規模：11,751.0 m <sup>2</sup>
実施期間	平成 7～10 年・4 ヶ年
実施事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“ひとづくり”事業として、公開レッスンや演劇ワークショップ開催。</li> <li>・“顔づくり”事業として、フェスティバル開催。</li> <li>・“場づくり”事業として、音楽、演劇などの公演実施。</li> </ul>
経費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約 9,700 万円(4 ヶ年合計・約 20 本)。このうち、12,000 千円は文化のまちづくり事業として文化庁からの補助金</li> <li>・プレ事業初年度予算は、200 万円程度(事業 2 本)。</li> <li>・2 年以降の予算は年間約 2,000 万円弱(自治体予算)。</li> </ul>
担当職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理運営主体の財団法人は既存していた。</li> <li>・建設準備と事業を総合的に担当していた職員は、プレ事業開始時には 7～8 名、平成 10 年度からは 15 名。</li> </ul>

●新潟市民芸術文化会館

施設データ	開館年月日：平成 10 年 10 月 22 日
	管理運営主体：(公財)新潟市文化振興財団
	設置主体自治体人口：新潟県新潟市 49.4 万人
	施設構成：大ホール(1884 席)、中ホール(868 席)、能舞台(382 席)、練習室(8 室)、スタジオ(2 室)室、託児室他
	施設規模：延床面積 25,099 m <sup>2</sup>
実施期間	平成 7 年～9 年・3 ヶ年
実施企画数	8 本
実施事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「N-PAC workshop」と称するスタッフ育成講座を 3 ヶ年計画で実施した。</li> <li>・コンサートホール、劇場、能楽堂を持つことから、それぞれの特徴を生かした音楽、演劇、歌舞伎といったジャンルの公演、ワークショップ、レクチャー付コンサートなどを実施、開館後の事業へとつなげている。</li> </ul>
経費	合計 28,725 千円(3 ヶ年) 経費内訳：チケット売上 7,929 千円、自治体からの委託金・補助金 20,796 千円
担当職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業担当職員は 6 名で、事業を含めた施設の開館準備全般に係っていた。</li> <li>・管理運営主体となる財団法人は平成 3 年に設立されていた。</li> </ul>

●滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

施設データ	開館年月日：平成9年4月
	管理運営主体：(公財)びわ湖ホール
	設置主体自治体人口：129万人
	施設構成：大ホール(1,844席)、中ホール(800席)、小ホール(323席)、リハーサル室、練習室ほか
	施設規模：延床面積 28,940 m <sup>2</sup>
実施期間	平成6年度～平成8年度・3年間
実施企画数	6本
実施事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「舞台芸術入門シリーズ」と題して、一般参加の合唱、オーディションダンサーによる発表などを組み込んだオリジナルな構成での公演を企画し、自主制作を行った。オペラ編3本、バレエ編2本、クラシック編1本。初年度1本、2年目2本、3年目3本。</li> <li>・プレ広報誌発行(3号)</li> </ul>
経費	86,559千円(3ヵ年合計)
担当職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理運営主体となる財団法人が設立されており、主体となって実施。</li> <li>・正規職員のほか、嘱託職員がいた。</li> </ul>

●世田谷パブリックシアター

施設データ	開館年月日：平成9年4月
	管理運営主体：(公財)せたがや文化財団
	設置主体自治体人口：東京都世田谷区 77.3万人
	施設構成：メインホール(612席)、小ホール(248席)、稽古場、作業場、スタジオ、生活工房他
	施設規模：延床面積 12,216.47 m <sup>2</sup>
実施期間	昭和63年度～平成8年度までの10年間
実施企画数	8本
実施事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『世田谷演劇工作房』と銘打った演劇ワークショップを中心に1年間に約1本のペースで実施。「演じる」「制作するスタッフ業務」「観客」などをテーマに取り上げ、1企画あたり6～10日、2、3ヶ月かけて行った。</li> <li>・施設計画や工事の進捗状況、プレ事業の記録などを掲載した広報紙を「準備号」と称し発行していた。</li> <li>・参加者たちから演劇集団が出来たり、経験者がプレ事業のサポートを行うなどの広がりを見せた。また、ワークショップ経験者が、開館後の劇場スタッフやワークショップの進行役として活動をしたり、自主事業にボランティアとして参加しているなどの例も見られる。</li> <li>・その他、演劇人を招聘してのサロンの催しなども随時開催していた。</li> <li>・プレ事業の段階から、現在のディレクターが関与していた。</li> </ul>
経費	ワークショップ1企画あたり3～500万円程度
担当職員	専任の事業担当として、2名がプレ事業の企画運営を担当していた。開館後は、劇場スタッフとなっている。